

しなののうた

夫逝きて早や半世紀迎ふるも今なほ凜と飯綱山ぞ



杉田小百合

しなののうた

居を構へ巢立つ子らを案じつつ喜怒哀楽を見遣る山なり

杉田小百合



しなののうた

飯綱の吹きくる風は心地好く会ふ友みなが朗らかなりき



杉田小百合

しなののうた

夕暮れに鴉一団飯綱を目指すがごとし埒（ねぐら）ありしか

杉田小百合



しなののうた

遠く住む息子のメール携帯に朝ごと届き気遣い嬉し



杉田小百合